

パブリック・サービス研究分科会 10月分科会 「私立大学協力による共同保存図書館設置の可能性」研究グループ報告書	
日時	2009年10月19日(月)
場所	実践女子大学
記録	山口 (実践女子大学)
参加者	塩瀬(女子栄養大学)、中島 (桜美林大学)、山口

### 前回までの進捗状況

- ①共同保存図書館の実現を目指し、次の通りの検討事項を確認した。
  - ・米国での成功例の調査
  - ・日本での現状の把握
  - ・実現に向けて考えられる定義や問題点の考察 等
- ②アンケート結果の整理を行い、新たに追加アンケートを実施することとした。
- ③研究論文の章立てのアウトラインを検討した。

### 今回の作業内容と決定事項

- ①追加アンケートの実施に向けて確認を行った。
- ③モデルとなる共同保存図書館像を検討した。
- ②研究論文の章立て案を具体的に挙げた。案は以下の通りである。

#### I はじめに

##### 1)このテーマを選んだ理由

- ・書庫の狭隘化は大学図書館の共通の話題
- ・別置状況…アンケート調査結果活用

##### 2)米国の状況

- ・New England Deposit Library (NEDL)
- ・Hampshire Inter-library Center (HILC) 等

##### 3)日本の現状

- ・立教大学新座キャンパスの保存図書館
- ・法政大学の経済関連資料の保存

##### 4)研究のアプローチの提示

- ・共同保存図書館の必要性は感じるものの実現していない原因解明と、実現可能に向けた施設はどのようなものか検証する

#### II 書庫の狭隘化の現状

- ・アンケートの集計・検証結果をふまえ、保存書庫の必要性を論ずる

#### III 米国事例に学ぶ

- ・成功を収めている米国施設の例を先行文献で紹介し、日本での事例と相違する背景等を考察する

#### IV 日本で実現しない理由

- ・平成6年の国立大学図書館協議会のまとめた「保存図書館に関する調査研究報告書」を中心に検証し、実現に至らない理由を解明する

#### V 実現に向けた解決策を独自プランによって展開する

#### VI まとめ

### 次回までの課題

- ・追加アンケートの実施・検証
- ・研究論文の章立て検討
- ・発表要旨作成・パワーポイント作成

(以上)